infoteria VISION

第20期報告書　2017.4.1 ～ 2018.3.31

インフォテリア株式会社

ごあいさつ
Top Message

インフォテリアは、システム、ヒト、モノ、そしてオモイを未来へ“つなぐ”企業として成長を続けてまいります。

株主の皆様には、平素より格段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、システムやヒト、モノの間にある情報を“つなぐ”ためのソフトウェアを開発し、提供しております。当期は、今期初頭の企業買収により新たに提供を始めた「デザインサービス」による売上、および主力製品「ASTERIA」シリーズの売上が伸び、売上収益は3,110百万円(前期比91.8%増)、営業利益は577百万円(前期比91.8%増)となりました。

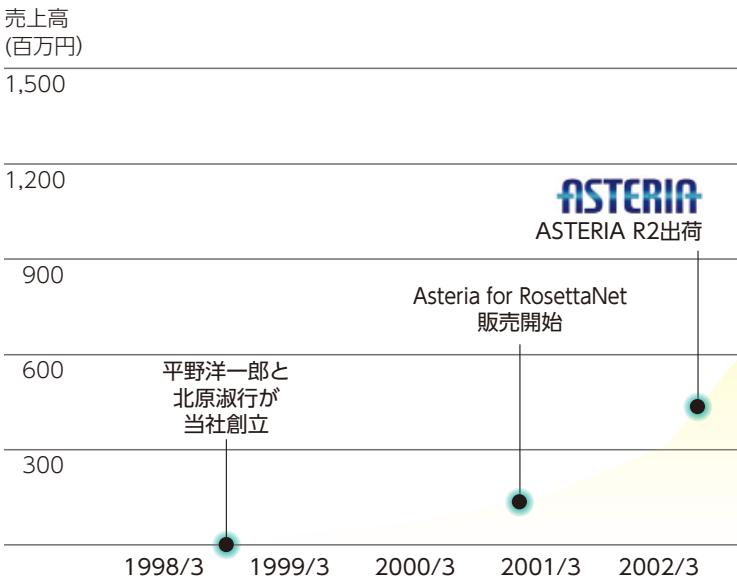
また、当社は今期より東証一部の上場企業となりました。これもひとえに、創業以来20年間の成長を支えてくださった、パートナーの皆様、ユーザーの皆様、株主の皆様のおかげであり、また、「念い」を「現実」に変えてきた社員、そして支えてくださったご家族の皆様のおかげです。心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。

そして当社は2018年10月より社名を「アステリア」へと変更いたします。「アステリア」とはギリシャ語で「星座」という意味です。星座は輝く星々をつないでいくことで様々なカタチを創っています。世の中にある様々な輝くものをつないでいき、新しいカタチ、新しい価値を創っていきたいとの願いを込めたものです。

新たな社名のもと、当社事業の拡大とさらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。今後ともご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

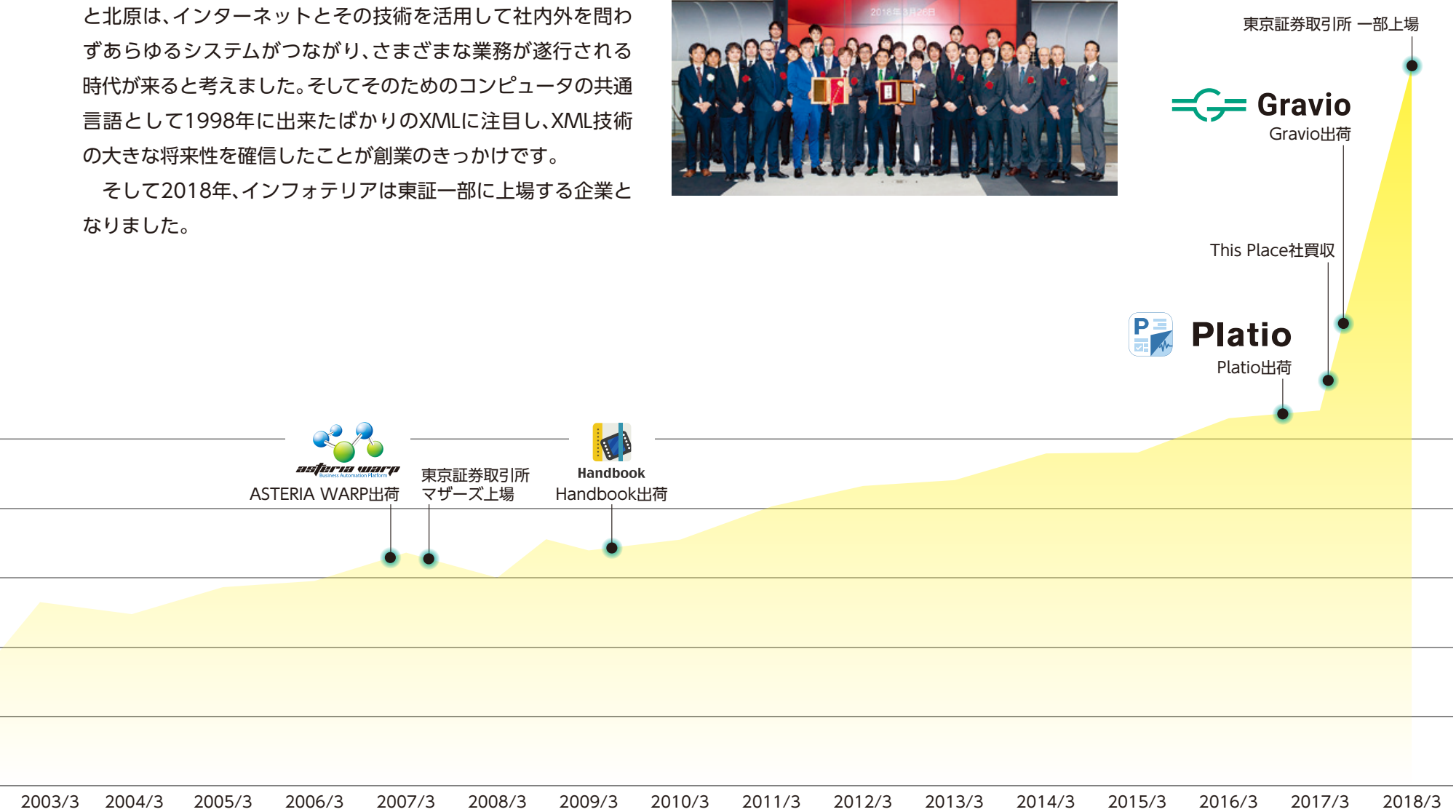
代表取締役社長 / CEO　平野　洋一郎

沿革
History



インフォテリア株式会社は、1998年に平野洋一郎と北原淑行の２名により設立されました。1998年といえば、まだ企業におけるインターネット活用が端緒についたばかりの年です。平野と北原は、インターネットとその技術を活用して社内外を問わずあらゆるシステムがつながり、さまざまな業務が遂行される時代が来ると考えました。そしてそのためのコンピュータの共通言語として1998年に出来たばかりのXMLに注目し、XML技術の大きな将来性を確信したことが創業のきっかけです。

そして2018年、インフォテリアは東証一部に上場する企業となりました。



製品情報
Product Information

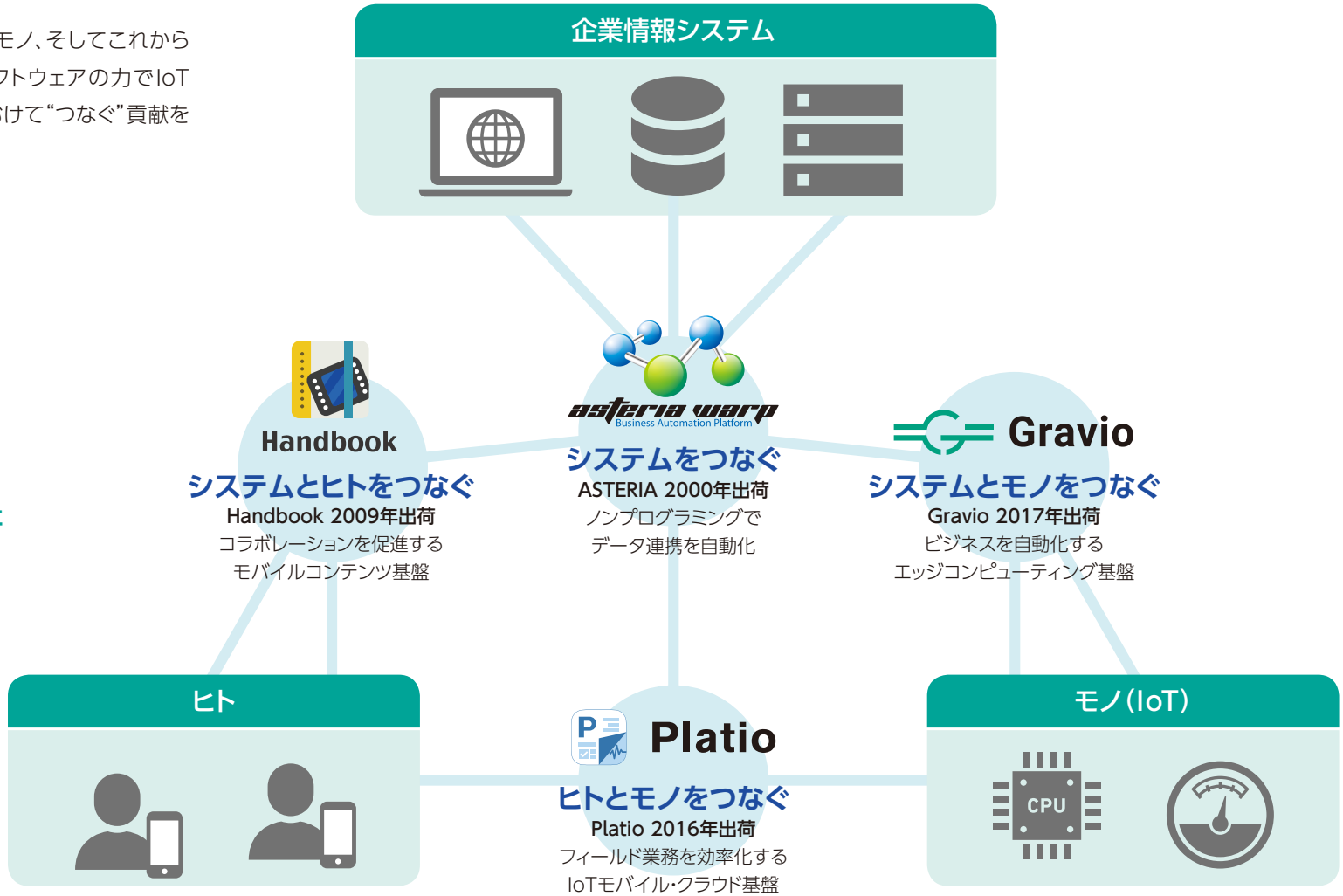
2000年にシステム同士を“つなぐ”ASTERIAが、2009年にはモバイルコンテンツの基盤としてのHandbookが誕生しました。そして、さらにモバイルとクラウドの基盤として2016年にPlatioが、エッジコンピューティングの基盤として2017年にGravioが順次出荷され、その導入数は順調に伸長しています。

システムからヒト、システムからモノ、そしてこれからはヒトとモノ。インフォテリアはソフトウェアの力でIoT(internet of things)社会実現にむけて“つなぐ”貢献を続けていきます。

ASTERIA
導入社数 **6,771社**

Handbook
累計導入件数 **1,384社**

つなぐフィールドはIoTに拡大



最新のITサービスを簡単に利用可能
ASTERIA WARP専用アダプター、続々提供開始

アダプターを活用することで様々なサービスの恩恵を迅速に享受

日本国内におけるEAI/ESB市場11年連続No.1※を誇るASTERIAシリーズ。様々なシステム間のデータ連携をノンプログラミングで自動化する本製品は「コスト削減」や「働き方改革」などにおいて、業種を問わず導入のシーンが飛躍的に増加しています。また、クラウドサービスの台頭に代表されるように、変化の早いIT市場において、日々新しいサービスが国内外で誕生しており、接続先は今後も加速度的に増加することが予想されます。

そのような環境で、新しいサービスを既存のビジネスに活用したい、既存のシステムを魅力的な新しいサービスに移行したい、という要望が増えてきております。しかしながら、サービスの接続に関して、個別にオリジナルの開発をしていくのはコスト的にも、時間的にも非効率となりがちです。

ASTERIA用の豊富なアダプターは、そのような問題を解決します。次々と誕生する新しいサービスを知り尽くした上で提供される専用アダプターが、より迅速に、より簡単に様々なサービスやデータとの連携を実現いたします。

システムを、サービスを、より簡単・快適に“つなぐ”各種専用アダプター。ASTERIAは“つなぐ”プロフェッショナルとして、市場のニーズに迅速に対応し、ビジネスにおける価値を今後もさらに高めてまいります。

※出典：テクノ・システム・リサーチ「2017年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB市場編」

アダプターによる豊富な接続先

オフィス/グループウェア等
Microsoft Excel, Microsoft SharePoint, Microsoft Office 365, Active Directory, G Suite, Google スプレッドシート, kintone, POWER EGG, クリプト便, D³Worker

ERP
SAP ERP, Microsoft Dynamics NAV, NetSuite, ServAir

データベース
Oracle Database, Microsoft SQL Server, IBM DB2, MySQL, PostgreSQL, MariaDB, Microsoft Azure SQL Database, Amazon Aurora, Amazon DynamoDB, MongoDB, Microsoft Access, FileMaker

SFA/CRM
Microsoft Dynamics, CRM, Salesforce, クライゼル

asteria warp
Business Automation Platform

11年連続 No.1 2007年-2017年 EAI/ESB市場

AI/IoT/ブロックチェーン
Azure Cognitive Services, Platio, mijin

マーケティング
Oracle Eloqua, Marketo
Google Analytics, Google AdWords
Sansan, uSonar

ソーシャル
Facebook, Twitter

BI
Tableau, Dr.Sum EA

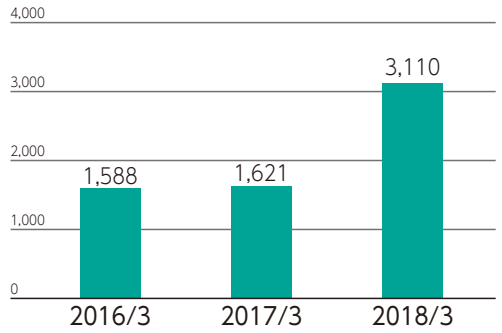
EDI
JFT/SaaS, Biware

DWH/ビッグデータ
Amazon Redshift, Google BigQuery, IBM PureData

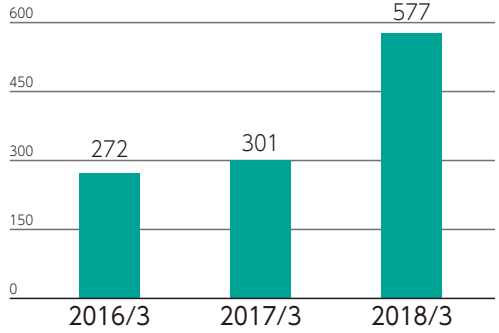
※一部基本機能で接続可能なものも含む

財務ハイライト
Financial Highlights

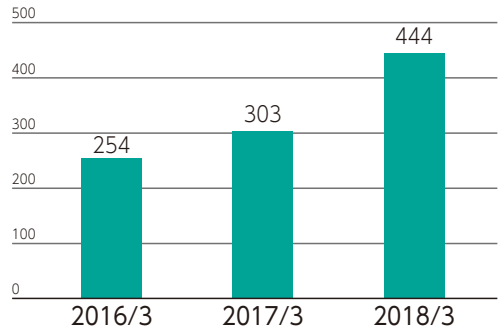
当連結会計年度における売上収益は3,110百万円(前期比91.8%増)、営業利益は577百万円(前期比91.8%増)、税引前利益は444百万円(前期比46.4%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は197百万円(前期比14.5%減)となりました。



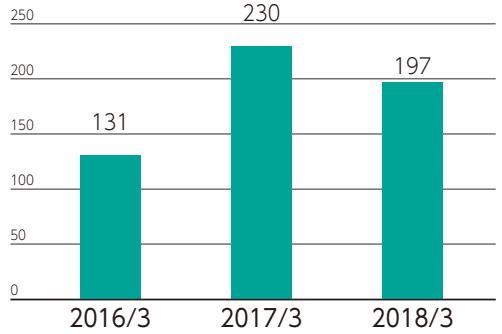
売上収益 (百万円)



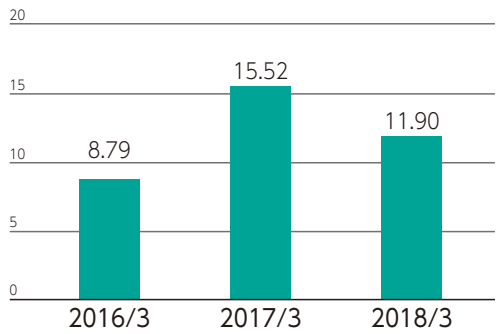
営業利益 (百万円)



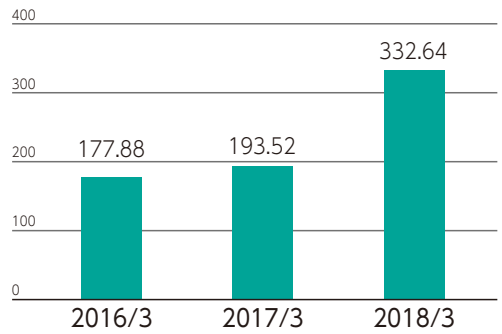
税引前利益 (百万円)



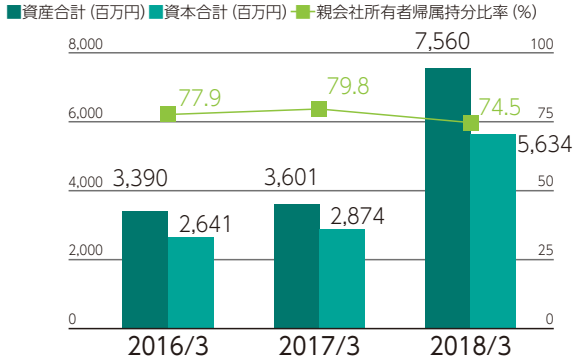
親会社の所有者に帰属する当期利益 (百万円)



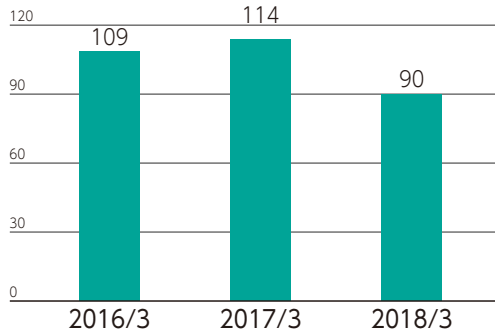
1株当たり当期利益 (円)



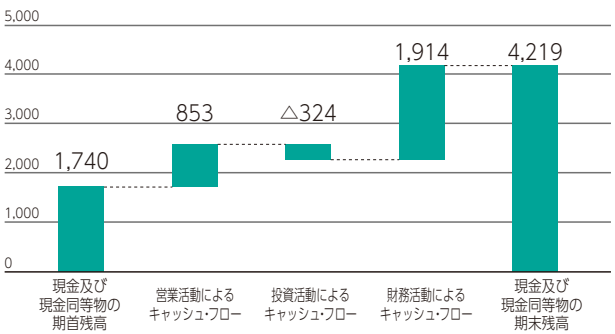
1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)



資産合計／資本合計／親会社所有者帰属持分比率



研究開発費 (百万円)



キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

会 社 情 報

Corporate Information

会社概要 (2018年3月31日現在)

商　号	インフォテリア株式会社 Infoteria Corporation
設　立	1998年9月
本　社	〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F TEL:03-5718-1655
西日本事業所	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目4番13号 阪神産經桜橋ビル 3F TEL:06-6344-1065
資本金	22億6,841万円
事業内容	XMLを基盤としたソフトウェアプロダクトの開発・販売
従業員数(連結)	120名

海外拠点

- Infoteria America Corporation
- 亿福天(杭州)信息科技有限公司
  Infoteria (Hangzhou) Information Technology Co., Ltd.
- 櫻枫天(上海)贸易有限公司
  Infoteria China Co., Ltd.
- Infoteria Hong Kong Limited
- Infoteria Pte. Ltd.
- This Place Limited
- This Place Inc.

役員の状況 (2018年6月23日現在)※は社外役員。

代表取締役社長/CEO	平野　洋一郎
取締役	※ 五味　廣文
取締役	※ 田村　耕太郎
取締役	※ Anis Uzzaman
常勤監査役	※ 赤松　万也
監査役	尾崎　常行
監査役	※ 小口　光
執行役員 副社長/最高技術責任者	北原　淑行
執行役員/コーポレート本部長	齊藤　裕久
執行役員/中国開発センター担当	黄　曦
執行役員/Global COO	Dusan Hamlin
執行役員/エンタープライズ本部長	熊谷 晋

株式情報 (2018年3月31日現在)

発行可能株式総数	44,600,000株
発行済株式の総数	17,480,165株 (自己株式535,141株を含む)
株主数	12,693名

大株主 (上位10名)

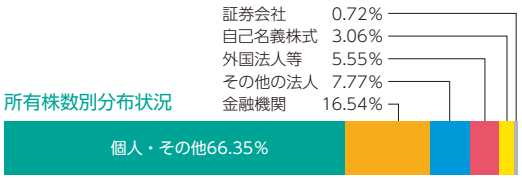
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
平野　洋一郎	2,040,000	12.04%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,430,800	8.44%
北原　淑行	958,000	5.65%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	680,000	4.01%
パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社	550,000	3.25%
株式会社ミロク情報サービス	528,000	3.12%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	305,800	1.80%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	211,100	1.25%
古谷　和雄	177,000	1.04%
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口)	126,100	0.74%

(注) 1. 当社は自己株式535,141株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式(535,141株)を控除して計算しております。

株式の状況　合計株主数 12,693名

所有者別分布状況

所有株数別分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
証券コード	3853
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
決算期日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
公告の方法	電子公告　ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 通話料無料 0120-232-711 (郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
特別口座の口座管理機関 同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 通話料無料 0120-782-031
ホームページ	https://www.infoteria.com/

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

インフォテリア、ASTERIA、Handbook、Platio、Gravioは、インフォテリア株式会社の登録商標です。
その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

IRメルマガ配信中

インフォテリアの最近のニュースやトピックス、キャンペーン情報などを、「Infoteria VISION@Mail」として配信いたします。

こちらからご登録いただけます

https://www.infoteria.com/jp/contact/mail/ir_entry/

第3回ホワイト企業アワード「テレワーク部門賞」受賞

当社は、一般財団法人日本次世代企業普及機構が次世代に残すべき企業を表彰する「第3回ホワイト企業アワード」の「テレワーク部門賞」を受賞しました。受賞にあたって、2015年から実施している当社独自の猛暑テレワーク・降雪テレワークなどのユニークなテレワーク施策が高く評価されました。これらの実施により、従業員の安全確保に加えて公共輸送機関の遅延や混雑が発生する際には無理な出勤を強いず、社員の生産性と創造性を高める方針を徹底してきました。

また、2017年9月からは「ふるさとテレワーク」を実施し、帰省など個々の事情に合わせたテレワークの推進を図るなど、地域コミュニティとの協業も含めた新しいスタイルのテレワークを今後もさらに追求していきます。

ホワイト企業認定

実証実験開始 EVの充電履歴をブロックチェーンで

当社は、中部電力株式会社、株式会社Nayutaと共同で電気自動車（EV）などの充電を行う実証実験を行いました。

主に仮想通貨で用いられているブロックチェーン技術を応用することで、大規模システムを用意する必要がなく、初期投資を抑えることができます。

利用者は、スマホの専用アプリで利用時間を指定して実行します。充電ステーションの持ち主である駐車場のオーナーは、どのユーザーがどれだけ充電したかなどの充電状況を把握し、利用料の収入状況などをリアルタイムに把握することができます。

このブロックチェーン技術を活用することで、信頼性の高い充電管理システムを運用することが可能になり、集合住宅のオーナーがEVなどの充電設備を導入して住宅の付加価値を高めるなど、新たな社会基盤となるサービスにつながる可能性があります。

新任役員からのメッセージ

インフォテリアの執行役員に就任しての意気込みをお聞かせください。

この度、執行役員に就任しました熊谷晋でございます。

インフォテリアには13年前に入社し、以来一貫してASTERIAの営業に尽力してまいりました。今年度よりエンタープライズ本部（ASTERIA及びGravio）を管掌します。

10年以上展開しているASTERIAですが、2018年3月期の売上が大幅に増加していますように、まだまだ大きな可能性を秘めた製品です。近年、少子高齢化による労働人口の減少により、日本の生産性向上は大きな課題となっています。こうした点を背景に、定型業務をソフトウェアロボットに代替させるRPA（Robotic Process Automation）による生産性向上の取り組みが話題となっています。多くの定型業務はそのプロセスを見直し、RPAのようなIT技術を活用することにより自動化できます。しかし、ITの専門家はIT知識があっても業務の理解がなく、逆に事業部門の方は業務の理解があってもIT知識がありません。

この溝を埋めるのがASTERIAです。ASTERIAは、製品機能はもちろんのこと、その使い易さも多くのお客様から高い評価をいただいております。ASTERIAを使えば、プログラミングを経験したことが無い事業部門の方でも、業務処理を自ら自動化することができますので、飛躍的な生産性の向上が期待できます。この価値をさらに多くのお客様にお届けしたいと考えています。

そしてASTERIAだけでなく、Handbook、Platio、Gravioなどインフォテリアの提供する製品/サービスは機能が優れているのはもちろんですが、「デザイン」も重視しており、これからさらに多くのお客様にご利用いただけると確信しています。私自身のミッションとしましては、まずは国内におけるASTERIAやGravioを中心とした事業を成長させていくこととなります。

これからも熱意を持って取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては引き続きご支援賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

熊谷　晋
執行役員
兼エンタープライズ本部長

infoteria VISION

東証一部上場記念対談「創業者の二人がインフォテリアの過去から未来を語る」

〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F　TEL:03-5718-1655

対談

北原 淑行 × 平野 洋一郎

副社長／最高技術責任者　代表取締役社長／CEO

創業者の二人がインフォテリアの過去から未来を語る

ー 創業当初のエピソード

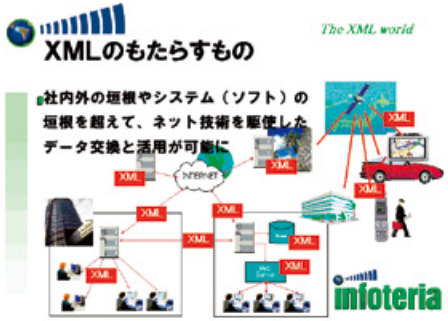
平野洋一郎（以下：平野）：会社がスタートしたのは1998年、東京都大田区沼部にある6畳一間のアパートで、「世界に通用する製品を開発しよう」「日本をソフトウェア輸出国にしよう」という念いを胸に北原と会社を立ち上げました。たった二人しか居ませんから、北原は製品を作る担当、私はそれ以外全てという役割分担でした（笑）。

前職でグループウェアを手がけていた関係から「組織を超えるソフトウェア」を作ることを目指していました。私は、20世紀型の組織は「規律・統制・階層」によって成り立っているが、21世紀は「自律・分散・協調」が基調になると考えていました。当時は〝クラウド〟のような言葉はありません。しかし、そのうちインターネット上にシステムが載り、さらにそのさきにはモバイル機器がつながっていく。これらのつながりを作るためのソフトウェアを開発する企業、それがインフォテリアです。

スタートアップ支援 パンゲアで利用される
IoT Future Lab.（略称：イフラボ）

創業直後は退職した会社からのご好意でミーティングルームやセミナールームを貸してもらうことができ、とても助かりました。メディアの方に取材に来ていただくにしても、面接ひとつするにしても、起業直後というのは苦労しますが、そういうところではありがたかったです。その時の感謝が今のベンチャー支援のひとつである「パンゲア」にもつながっています。

また起業のための資金調達にあたっては、当時の主流であった「融資」ではなく、アメリカ型の「投資」で事業を立ち上げるモデルを考えていました。ただ、その頃の日本にはベンチャー企業への投資がまだ普及していませんでした。門を叩いたベンチャーキャピタルには、すべて出資を断られ、知人に出資してもらうことから始めざるを得ませんでした。しかし、株主に有力な外資系企業の経営者の名前が連なり始めると、ベンチャーキャピタルからは掌を返したように「出資したい」という連絡が増え、創業から1年を待たない1999年の8月には、ベンチャーキャピタル向けの事業説明会を開きました。



当時の説明会で使われていたスライド

北原淑行（以下：北原）：いざ、出資を受けることができるとなると、作る側にもプレッシャーがかかりました。もともとXMLをベースとし、そして企業間通信可能なプラットホームとなるサーバというのをベースに考えていたので、企業の規模に関係なく使えるようなソフトウェアを作ろうというのはありました。機能的にも豊富で、技術的にも新しいというものをできるだけ取り入れようと考えていましたが、全部が新しいと扱いにくいものにもなってしまいますし、最初のリリースでどこまで自分たちがやりたいことを落とし込むのかというバランスにも悩みました。また、本当にこれで受け入れられるのかわからないという葛藤や、今でこそメジャーになりましたが当時の時点でJavaScriptをユーザが使える言語として用意したのは、20年前の段階ではやりすぎではないかとも思いました。

平野：私がボストンの郊外まで行って、JavaScriptエンジンの交渉をしました。日本からは問い合わせが入ることはあっても、人が来ることはないので、とてもめずらしく映ったでしょうね。やはり最初は直接会って顔を見て、話をすることが大切だというのは今でも変わりませんね。

今でも変わらないフットワークの軽さ
(This Place社のDusan氏と英国からのビデオ対談の様子：第19期報告書より)

― 一部へ市場変更した感想

平野：多くの人達に出資をしてもらうわけですから、創業当時からIPOは目指していました。ただ、東証一部を意識したのはマザーズに上場してからで、その前は、世界市場を目指すということで、次は香港市場やNASDAQを意識していました。マザーズ上場後は、海外で株式交換を前提とした買収提案をいくつも行いましたが、マザーズの株式では相手にしてもらえませんでした。そこで、

対談のロングバージョンを WEB で公開中です。
https://www.infoteria.com/jp/news/newstopics/2018/06/24_01.php

まずは優遇措置もある一部に行こうと決めました。そして今、マザーズ上場から10年、当初の考えより時間がかかってしまいましたが、東証一部に上場できたことは素直にうれしいです。

北原：やはり東証一部となると信用力も上がっていくと思っています。我々のソフトウェアはB to Bを想定したものですから、規模の大きな企業のお客様に向けても信用力が上がることはプラスに働くでしょう。また、東証一部に上場して、これからもっと海外向けにも発信していくことができると思っています。

平野：東証一部に上がると「もうベンチャーではないですね」とか、「大人の会社になりましたね」と言っていただいて、一般的には落ち着くようなイメージがあるらしいのです。ただ、私としては、まったく落ち着く気はなく、さらに積極的にいきたいと考えています。これからも、経営理念の最初に掲げている「発想と挑戦」に基づいてベンチャー企業の精神を忘れず、新しいことにどんどん挑戦していきたいですね。

上場セレモニーの様子

― インフォテリアの10年後、20年後のビジョンについて

平野：ソフトウェアはものすごい爆発力をもっています。Googleのように世に出てから5年の間に世界中で使われているようなことが可能なのがソフトウェアというものなのです。インフォテリアも既存の製品やサービスを育てつつ、世界中で使われるような爆発力のあるソフトウェアを開発し提供したい。10年後ではちょっと遅いかな。もっと早い段階でそれが実現できればと考えています。

北原：ITやAI（人工知能）がはやり始めていて、いろいろなことが人間なしでできるようになっていると皆さん思っていらっしゃるんじゃないでしょうか。しかしよく考えると、現在でも人間の「腕」ひとつちゃんとしたものは作れてはいません。少なくてもそういうところの一部にしっかり貢献できるようなソフトウェアを、この10年20年で開発したいと思います。また、今のソフトウェアは生活スタイルを楽にするものが主になっていますが、これからはもっと様々なインフラなどを支えていくでしょう。ソフトウェアとハードウェアも、もっと密接になって、ITそのものがひとつになっていく。そういうものをインフォテリアでも作っていきたいと思っています。

― 株主の皆様へのメッセージ

北原：株主になっていただくということは、当社の未来に投資をしていただくことだと思います。私たちはそれに応えられるようなソフトウェアを作っていきますので、投資家の皆様には私たちの考え方を理解していただき、当社の未来に永く株主として参加していただければと思います。

平野：インフォテリアでは今必要なものを今提供するのではなくて、先に必要になりそうなものに対して投資をしていくことを続けます。その未来を一緒に作っていくような意識とご理解のある投資家の皆様にぜひ株主になってほしい、応援してほしいと思います。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。